

令和6年2月 市長定例記者会見

令和6年2月1日(木)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから定例記者会見を開始いたします。

初めに市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 前回記者会見したのは1月4日の仕事始めの日だったと思います。あのとき地震の話もいろいろあったと思いますが、1か月弱たちまして、やはり被害の大きさというのが分かり、敦賀市は今、本当に支援のモードで一生懸命やっています。まず最初に、被災されて亡くなられた方のご冥福、それから被災された方々へのお見舞いを申し上げたいと思います。

時系列的にこの1か月を振り返りますと、1月21日には、皆さんも取材に来ていただいたかと思いますが、敦賀の新年、年頭を飾る伝承行事の敦賀西町の綱引きが行われました。4年ぶりの開催ということでした。夷子大黒の綱引きと通称を呼んでいるものですが、私は大黒さん、大黒神をやらせていただきまして、大分お腹に詰め物をしてやっただけですけれども、大黒さんのほうの勝利ということで、非常にいい気分よく、いい祭りでした。

大黒さんをやるということで、そのことだけで周りの方からは、おめでとうございませうとか、何かめでたいね、などと言っていて、この祭りがやはり愛されているなと思いました。

私、毎年、地元の行事がありまして、実は綱引きを初めて見るのがいきなり大黒様デビューだったんですけれども、本当に行ってみて、参加してみても、いい祭りだなと思いました。皆さん、綱を引くときは結構勇ましく引くし、何か新年らしい、いい祭りだなと思いました。

震災の後に、いろいろ皆さん被災者の方に寄り添いたいという気持ちもあり、その中でいろんな行事が自粛という気持ちも十分分かるんですけれども、いろんなところで申し上げているのが、しっかりと日常生活を送ることも一つの支援になっていくということです。特に長期的に見たときに、我々までが元気をなくしては、あるいは経済をちゃんと回さなくては、長い目で見たときに能登の人の応援にはならないということを申し上げていまして、このような行事なども含めて日常生活をしっかりと送ることも大事なんだなと祭りに参加しながら思いました。また、4年ぶりの開催というのはコロナが明けてということに

なります。コロナ禍が大分収まってきたからこそできるということもあって、こういう伝統行事をちゃんとつないでいくということが本当に大事なんだなと思いました。また、地域のつながりということをこれからも大切にしていきたいなということを感じるような行事でした。

綱引きが終わった次の週になると、今度は結構短時間で雪が降りました。1月24日の未明からだったと思います。この冬一番の寒気ということだったんですけども、本当に短時間でかなりの雪が降った結果、トータルの量はそこまで多くはなかったんですけども、結果として越前市と敦賀市の間で、北陸自動車道と国道8号線が18時間あまり同時通行止めになるということ、それからJR、鉄道のほうは特急サンダーバード、しらさぎが終日運休になるということで、生活には大きく影響がありました。

このようなときでも国土交通省の近畿地方整備局さん、福井県の土木事務所さんなど、非常に安全・安心のためにご対応いただいております、やはり量的にはあれぐらいの雪でそうになってしまうんだなと思いました。

去年の「ブラタモリ」で、「すべての道は敦賀に通ず？」というのがサブタイトル的にあって、国土交通省とかの道路の要望活動でもよく言うんですけども、全ての道は敦賀に通ず。だけれども最近では1年に1回ぐらい通じてないときがあるという言い方をしますが、ここの脆弱さというのは一つまた課題になるんだろうなというふうに思いますし、先ほど申し上げた関係のところ、関係の機関と一緒に、そういう脆弱さの解消というところには尽力していきたいなというふうに思っています。

そして、冒頭の挨拶のトピックスとしては最後なんですけれども、敦賀気比高校の野球部の春の甲子園の出場が決まりました。大会としては第96回の記念選抜高等学校野球大会ということになりますね。4年連続の出場ということで、お祝いを申し上げたいと思います。おめでとうございます。

敦賀の代表として、甲子園球場で持てる力を存分に発揮していただきたいと思いますし、よく球春到来という言い方がありますが、我々敦賀市民としては、この甲子園もそうですし、あとプロ野球が始まれば敦賀気比高校出身の選手もいますし、もっと言えばメジャーリーガー吉田さんもいるということで、本当に楽しみな春になってくると思っています。

その楽しみな春の中に、新幹線の話があると思っています。北陸新幹線敦賀開業まであと44日ということで、今日も記者会見の中でもいろいろ説明をさせていただきますけれ

ども、より一層市内の機運醸成に努めていきたいと思っています。

冒頭の挨拶は以上です。

【秘書広報課主幹】 では続きまして、事業発表に移ります。

1つ目の項目、コミュニティバス及びぐるっと敦賀周遊バス等へのICOCA導入について、お願いいたします。

【市長】 コミュニティバス及びぐるっと敦賀周遊バス等へのICOCA導入についてです。

2月24日の土曜日から、コミュニティバス及びぐるっと敦賀周遊バス、それから福井鉄道バス、これは若狭線、菅浜線ということになりますけれども、ここでいわゆる交通系のICカード、ICOCAの運用を開始します。

ICOCAの導入は、北陸新幹線敦賀開業に向けた2次交通の利便性向上の施策の一つとして考えております。首都圏から敦賀へ新幹線で来られた方がJRからバスへスムーズにシームレスな移動ができるということで、バスを使って市内を観光していただけるものと期待をしています。

また、これによりまして、ICOCAのカード、それからモバイルICOCA、Apple PayのICOCAのほかに、相互利用が可能ないろんなカード、Suicaなどがあると思いますけれども、全国の交通系ICカード、まずは10種類のカードがご利用いただけるようになります。

以上です。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいまの項目について質問をお受けいたします。

最初に、幹事社の方からお願いいたします。

よろしいですか。〔なし〕

では、他社の方、ありましたらお願いいたします。

よろしいですか。〔なし〕

では、2つ目の項目に参りたいと思います。北陸新幹線敦賀開業プロモーションについて、お願いいたします。

【市長】 北陸新幹線敦賀開業プロモーションについてです。

北陸新幹線敦賀開業を契機としました敦賀市の認知度向上に向けまして、今年度取り組んでいるプロモーションの一環として、今月、2月8日から12日にかけて、北陸新幹線沿線の長野市、さいたま市において開催されるイベントに出展しまして、本市のPRを実

施いたします。

長野市とさいたま市と申し上げたんですけれども、長野市では善光寺周辺で行われる長野灯明まつりに合わせて開催されます善光寺表参道イルミネーションプロジェクトの会場にブースを設けて、神楽1丁目商店街べっぴん会のメンバーにご協力をいただきまして、おぼろ昆布のお吸い物振る舞いや抽選会を実施するほか、善光寺商店街との交流事業を行います。

さいたま市では、4年ぶりに開催されるさいたまマラソンへ敦賀市民5名の方にご参加をいただきましてフルマラソンを走っていただきます。走っていただきながら、参加しているランナーや沿道の方々との交流を実施していただくほか、さいたまマラソンの発着会場となるさいたまスーパーアリーナ内に、これもまたブースを設置いたしまして、敦賀市の観光PRや敦賀マラソンのPRも行いたいと思っています。

いずれも直接、敦賀市民が沿線の自治体に赴いて、イベントとかに参加して現地の方々と交流を生むということで、今度は開業した後に、逆に敦賀に行ってみたいと思ってもらえるきっかけをつくっていきたいなと思っています。それから、そのようなつながりをつくることによって継続的な来訪者増につなげていく。そのような市民間での相互交流創出を目指した取組ということになります。

先ほどブースを設けるという話をしましたけれども、ブースの中では、みんなで応援プロジェクト、今までもご承知かと思えますけれども、みんなで応援プロジェクトで制作しました市民の方々からのメッセージ動画を放映しますし、敦賀市民の顔を押し出した、敦賀市民をメインにしたようなプロモーションを展開していきたいと思っています。

そのプロモーションの中で、今回のプロモーションでは、敦賀市が全国でも有数の加工技術を持つ昆布に注目、着目をして、昆布を鉄道切符に見えるようにした昆布切符というノベルティを使ってPRを行っていきたいと思います。

昆布切符です。〔拡大した昆布切符提示〕

実物は切符のサイズぐらいで、これが実物です。〔実物提示〕

この昆布切符を使って、これを例えば話のネタというか、そういう感じで交流のきっかけに使ってもらえたらなと思っています。

この昆布切符、字が印字されているんですけれども、袋に印字されているのではなくて昆布に印字されているということです。昆布にこのように直接印字する技術があって、切符風のだし昆布なんですけれども、敦賀市が全国シェア80%を誇るおぼろ昆布。このお

ぼろ昆布とセットにして各ブースで配布をするという予定になっています。

では、この昆布の切符は何の切符なのかという話なんですけれども、北陸新幹線の開業日の3月16日から1年間の間、昆布切符を持って敦賀へお越しいただいた方には、市内公共施設や商店街の店舗等で特典が受けられるキャンペーンを実施します。今回のプロモーションで関わっていただいた方々が一人でも多く北陸新幹線で敦賀へ来ていただければと期待をしています。

書いてあるのは、「ようこそ、敦賀へ」と、それから「きっぷの提示で特典がいっぱい」。ただし、だしとして使用した後は使えませんよ、無効ですよということが書いてあります。

私のほうからは以上です。

**【秘書広報課主幹】** それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。

最初に幹事社の方からお願いいたします。

**【記者】** 具体的に、特典というのはどのようなものがあるのでしょうか。

**【市長】** 公共施設でいうと、例えば施設に入館したときに、オリジナルのグッズや粗品がもらえます。例えばミュージアムや赤レンガ倉庫、それからノベルティでいうと、ちえなみきも切符の提示でもらえます。また後から資料が皆さんのところに行くかと思うんですけども、市立博物館のほうでもオリジナルグッズ、山車会館もオリジナルグッズ、柴田氏庭園でもオリジナルグッズということになっていますし、今言っていないところで言うと、キッズパークつるがでは施設入館料が20%割引、オルパークの観光案内所も、敦賀のイラスト手ぬぐいがあるんですけども、その購入料金が20%割引、500円のところを400円というようなことです。割と公共施設などではそのようなことをやらせていただきますし、今日皆さんのお手元に行くであろう特典一覧の中には載っていませんけれども、商店街のほうとも協力して何か特典について今いろいろ相談をさせてもらっているというところなんです。

**【記者】** 昆布切符で、全部で部数というか何枚用意されているのかというのと、長野とさいたま以外でも今後PRとして考えていらっしゃるのか、現時点で検討されている範囲で教えてください。

**【観光部長】** 現在のところ1,000部、作成しております。長野とさいたまのほうでいろんなお話をする中でお配りしたいと思いますけれども、当然、全て配る、終わる予定

はしておりませんので、その後のいろんな市内のイベントも含めて、開業分を含めて残り分は使いたいと考えております。

以上でございます。

【記者】 確認ですけれども、合計1,000部で、長野で希望者には全員配って、さいたまでも配って、というイメージ。先着ではなくて、というイメージでよろしいでしょうか。

【観光部長】 先着とかというわけではなくて、ブースに来ていただいて、いろんなお話をしながらお配りするという形を考えております。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 この昆布切符、いろんなところが面白いところが散りばめられていると思いますが、特に市長の中で何か気に入ったポイント等ありましたら教えてください。

【市長】 これ私、一番初めに見たときに、ぱっと見て面白いなと思いました。今日もここに来て、机の上にこれが置いてあるのを見て、ちょっと笑ってしまったんですけども、何かやっぱり北関東や長野のほうで、今まで交通の関係もあって、敦賀がそこまで知名度が高かったかというところではなかったと思うんですけども、それを知ってもらうときに、やはり何か知っている私が思わず笑ってしまうぐらい注目されるというか、そのような素材ですので、そういう意味では敦賀というのを一気に知ってもらえるかなと期待しています。

【記者】 ちなみになんですが、これは本当に、だしとかで食用で使えるものなんですか。

【市長】 大丈夫です。多分おいしいと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。

それでは、フリーの質問対応のほうに移りたいと思います。

では初めに、幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 新幹線関連でお伺いするんですけども、3月の新幹線開業と同時期で北陸応援割も福井県が対象になっていると思うんですけども、こういう機会をどういう機会にしていきたいか、どういう誘客にしていきたいかというのを、お考えをお聞かせください。

【市長】 北陸応援割というのは、もともと震災に関して打撃を受ける観光業のためにできたものだとして理解しています。それに福井県が入っていて、ある意味、被害がほぼなか

った敦賀でそれを使うというのはどうなのという話があるかもしれませんが、先ほど私、冒頭でも申し上げたように、北陸新幹線の沿線が経済的に頑張っていくこと、特に新幹線開業を契機に頑張っていくことが、ひいては能登の支援にもなると思っています。そういう気持ちでやっていくのがいいのかなという中で、この北陸割を使っていただいて敦賀のほうにも来ていただくということで、我々が元気になり、それで能登の人を応援できるということであれば、どんどん使って福井県、北陸地方に訪れていただきたいなと思っています。

【記者】 あと、北陸新幹線の敦賀駅での乗換えについて、1月にJR西日本さんのほうで実際に訓練という形で、いわゆる車椅子の人であったり、外国人観光客であったりを想定して乗換え訓練を行ったわけですが、そういう方が想定してということで多分最大限時間を取っていたと思うんですけども、乗換えの目安の8分がなかなか厳しいのではないかという印象も訓練を見ていて受けたんですけども、そこら辺に関して、市長、受けとめはいかがでしょうか。

【市長】 あれだけ大きい駅なので、移動にそれなりに時間がかかる。ただ、それを想定しながらダイヤも組まれたはずなんだろうなと思っています。

実際にある意味、運行してみないと、ああやってシミュレーションをやっても分かり切るかというところとそうでもなくて、実際に本当にお客さんが来て、どうなるのかというところを見てみないと分からないと思うんですが、よくよく考えてあのダイヤをつくられたと思いますので、まずは大丈夫なんだろうな、大丈夫であってほしいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 原子力防災について一つお伺いします。

能登半島地震を受けて、志賀原発のほうでも実際の広域避難計画が機能しないといういろいろな課題が出たと報道で伺っています。敦賀に関しても、2021年に美浜原発3号機に関して広域避難計画ができたわけですが、市長、現状を見て、現状の避難計画に対して何か課題とか、実効性がないとか、お考えはありますか。

【市長】 多分、志賀のほう、能登半島のほうを見て、言われているのは、道路が寸断されてなど、そういうことでという質問でしょうか。

【記者】 あと屋内退避と。

【市長】 分かりました。

それでは、いざ起こったときに一番最初にするであろう屋内退避のことから申し上げま

すと、実際家が損壊してしまった場合に、全壊、半壊となったときに屋内退避ということが実際できないのではないか、できない人が出てくるのではないか、ということだと思います。

今回それは一つ大きく、そういうことがあり得るんだということがクローズアップされたと思います。例えば敦賀半島のほうでいいますと、そういう場合も想定しつつ、例えば旧西浦小中学校、旧常宮小学校が指定避難場所になっているんですけども、あそこは新耐震基準に沿って建設されています。もともと学校施設ですので、そういう施設であり、放射線防護対策施設でもあるということで、実際にそういうことが起こって自分の家が壊れたときには、そのような施設があるということは敦賀半島においてはあります。

ただ、今回いろいろ知見も得られたところではあると思いますので、基本的には避難の仕方というのは、まず屋内退避して、それから逃げられるのであれば、今度はなるべく離れる避難をするというのが国の指針でもあるんですけども、今後そういう原子力災害の対策指針が今回のことを踏まえて見直しをされるなどということがあるのであれば、敦賀市のほうの地域防災計画も見直していくということを考えなければいけないんだろうなと思っています。

それから今度、広域避難をやるときの、能登半島でも地震に伴って土砂災害が起こって道路が寸断されるということが起こったわけですけども、敦賀のほうもさっきの計画の中では、避難道路というのはもちろん複数設定されていて、一部の道路が寸断されても避難できるような地域防災計画はあるんですけども、例えば本当に万が一、全ての避難道路が寸断されたというようなことがあったときには、先ほどのお話で、一定期間、その道路が通れるようになるまでは屋内避難を実施する、屋内退避を実施するということにならざるを得ないということだと思います。実際問題、現実問題として。

考えなければいけないのは、そう簡単に道路が寸断されてはいけないということになると思いますし、敦賀市としても、それから原子力ということでいえば全原協の立場でも、道路等の広域避難のインフラ整備というのは、ずっと言ってきたことです。インフラを整備する、あるいは強靱化をするということはずっと言ってきたことですので、今回、志賀原発は原子力災害ということではもちろんなかったんですけども、いざというときの複合災害のときにおいてもしっかりと機能してくれる、そのような強靱なインフラ。これは道路だけではないと思うんですけども、そういうことの整備というのは、これから原子力を最大限活用していくと言い、国の責務だということを行っている国に対しては強く求



めていきたいなと思っています。

なかなかこれは我々だけでできることではありませんし、ましてや人口が少ないところは、どうしても原子力の立地というのは人口が少ないので、経済的な観点からはなかなかそういう避難道路とかも整備されにくいということがありますから、しっかりと国のほうで対応していただきたいなと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは次に、各社の方からお願いいたします。

【記者】 先ほどの質問に関連してなんですけれども、特に屋内退避に関して、今回のようなケース、今回は重大な原子力事故に至っているわけでは全然なかったですけれども、余震は絶えず来る、津波も来る、火事も起きている、家屋の倒壊が相次いでいるというときに、この建物は頑強で放射性物質も防げます、だからここにとどまってくださいというのが、果たして人間の心理を考えたときに現実的な対処なのかということはあると思います。それは多分、今回明るみに出たのではなくて、今までもいろんな人が考えていたことだとは思いますが、その辺も踏まえて、規制庁も指針を見直していく考えはあるようですから、一立地自治体の長としても、全原協の会長さんとしても、実効性という点で要望というかお考えがあればお聞かせください。

【市長】 要望というか、現実問題として、さっき言われた実効性をどう持っていくかという話はすごい重要だと思うんですね。いろんなことが重なって起きるのが今回のような大きい震災で起こることだとすると、それに対して、すぐに原子力災害のことだけ考えて逃げられるのかということ、そうではないかもしれない。そういうことはいろいろ想定が今回ある意味、言われたように、今までずっと議論されてきたことではあるけれども、今回やっぱり強く皆さんの印象に残ったと思いますし、そういう意味では、これからどうやっていくのかについて具体的な話は検討されていくんだろうなと思います。

それは、今までの計画が全部が全部悪かったのかということと多分そうではなくて、今までの計画をずっと見て、今回のを照らし合わせながら、ここはこういうふうに変えていかなければいけないのではないかとか、ここはこういうものが要るのではないかとという話これから進んでいくと思いますので、そういうことは実際、我々立地のほうの意見も、いろいろコミュニケーションもそういうことをやっていく中では想定されるんだろうなと思いますし、まだ全原協のメンバーで話し合いを始めているわけではないですけれども、今後やはり議題というか課題になっていくんだろうなと思います。

今までそういう意味で言うと、インフラ整備のところもずっと言ってきたんですけれど

も、我々の言い方としては、インフラ整備を含む原子力災害に対する対応ということであって、必ずしも道路のことだけをもちろん言っているわけではなくて、例えば道路だけで逃げるわけではなくて船で逃げなければいけない人たちもいるわけで、そういうことも含めてどうしたらいいんだということは今まで全原協の中でも話題にはなってきました。今回のことも踏まえて、屋内退避のことも踏まえて、どうしていくのかということは、今までの議論に付け加える部分はもちろんあると思うので、そういう議論をしていくんだろうなと思っていますし、全原協の中だけで言っても仕方ないので、それは今後、国とのコミュニケーションというか、いろんな相談というのをしていかなければいけません。国だったり、あとは事業者としていかなければいけないんだろうなと思っています。

【記者】 加えて、敦賀の場合に、やはり半島の途中のところにある原発というのが実際にあるので、今回、石川というものすごく地形の難しいところで起きたなというのは非常に思っているところなんです、やはり道路が寸断されたときに逃げる方向がなくなってしまうというところで、これは道路を多重化したところで全部崩れてしまうのと同じなので、そういったところ、まさにお膝元の敦賀で、この教訓をどういうふうに生かしていかなければいけないとか、そういったときの対応について、お考えがあればお聞かせください。

【市長】 敦賀の場合、まず、そもそも多重化の前段階として、しっかりとまず一本の道も強靱化していかなければならないという中で、敦賀半島においては原子力災害の制圧道路、まずは何かあったときに制圧するためにアクセスできなければいけないと思います。そのアクセスするための道を強靱化しようということで、今までもいろんなトンネルの整備などが行われてきました。

それは多重化の意味ももちろんあるんですけれども、そういう形で敦賀半島では一定頑張っていて、アクセス性を逃げるほうも含めて高めるということはやられてきたんだと思います。

この手の話は、それで完璧かということになるかと思うんですよね。安全度を、あるいは対応力を上げていくということ言えば、そうやって今まで制圧道路とかそういうことはされてきたんだろうけれども、それで100点満点かという和多分そうではなくて、いろんなことを考えていかなければいけない。今おっしゃられたように、制圧道路と言ってやったけれども、それ以外のところで崩れてしまって実際通れなくなったらどうするのかということは、今回のことで考えなければいけないということは分かったんだと思うんで

す。

ただ現実として、何本も道を造るのかというと、それはなかなか現実的ではない中で、いろんな屋内退避を、損壊することも想定しなければいけないんだろけれども、それでもある程度、屋内退避で逃げる場所をつくっておくとか、そういういろんな多重の手段というのを考えていくことになると思うんです。例えば、それが船であるのかもしれないし、というところは今後の、先ほど言いましたけれども課題になってくるんだろうなと思います。

では敦賀市だけがそれをやるのかというと、それは多分そうではなくて、いろんなところと関係しながらやっていかなければいけないんだろうなと思っていますし、今後の原子力の行政というところの中で一つポイントになってくるんだろうなと思っています。

【記者】 冒頭でもおっしゃっていただいたと思うんですが、改めて、今日が能登半島地震発災から1か月ちょうどというところもありまして、この1か月を市長、振り返って、被災地に対して感じることであったりとか、敦賀のことでも含めて感じることに、あと、これから敦賀としてどのように能登に寄り添う、支援するということができるかというところで、今お考えになっていることがあればお聞かせください。

【市長】 今までは多分、報道の皆さんにも、敦賀市がどういう支援をしてきたのかということはお知らせしているかとは思いますが。もちろん敦賀市の職員、消防も、それから医療のほうも含めてですけども、現地のほうに行って救助活動、それから医療活動、その後は避難所の運営だったりとか、水道、下水道の点検だったりとか、いろんなことを今やっています。

また、2次避難のほうでも、市営住宅を16戸ですけども受入れの準備はしまして、今2戸入っていただいているということでやっていますし、あと病院のほうにも、被災地のほうから敦賀病院のほうに来られている方がいらっしゃると思います。また親戚を頼って敦賀のほうに来られている方、新聞にも載っていたかと思うんですが、学校のほうの受け入れ、それは教科書の準備とかも含めてやらせていただいています。

そういうことで、福井県全体でもそうなんですけれども、同じ北陸である石川県、能登地方を応援していこうという気持ちは皆さんおありで、今申し上げたような支援をしているんだよということを私、新年会とかも多いので、その席で挨拶させていただくときには、ほぼこの話をさせていただいています。

というのは、今ボランティアもなかなか受付ままならない、受け入れままならない中で、

皆さん何とかしたいという気持ちはあるんだけど、自分はなかなか現地に入ってとかというわけにいかない中で、敦賀市の職員が市民の皆さんを代表して頑張っていますということを見ると、皆さん本当に何かほっとした顔をされたりしますので、あえてそういうことを紹介させてもらっています。市民の皆さんの気持ちもそういう気持ちが強いですし、また、いろんな義援金などの募金活動をしていただいたりとか、あるいは会社とか団体単位で敦賀市を通じて、それは赤十字を通じてということになるんですが、募金を持ってきていただいたりとか、そういうことは本当によくしていただいています。

あと企業さん関係でも、向こうの復旧活動に入られている会社さんも敦賀市内にありますので、本当に民間、それから我々行政のほうも含めて、支援のほうはしっかりやっていきたいなと思っています。

これが支援の関係で、その次に、実際1月1日に避難指示を敦賀市でも出したんですが、それは津波の警報が出たので、被害が想定される場所には避難指示を出したんですけれども、津波警報で避難指示を出すというのが敦賀市では初めてですね。

ということで、いろいろ反省点というか、もっとこうしたらよかったな、津波のときはこういう対応をしなければいけないんだなということを思うところも正直ありましたので、そこは今後に生かしていかなければならないなと思いました。

少しエピソード的に言うと、12月ぐらいに災害対応のことで、災害対策本部を立ち上げてどうするということをもう一回しっかりと、どういう手順になるのかシュミレーションしたいねという話を12月にしていて、ただ12月中、日程が詰まっていて、1月に入ったらやろうねと言っていました。それまで何もないといいねということをつたえまわっていたら1月1日にこういうことになりました。本当に1月1日ということだから、日を選んでくれない、時を選んでくれないのが災害だなというのは今回すごい痛感しましたので、なるべく早く体制も整えて、敦賀市で何かあったときの対応力というか減災力というのを高めていきたいなということをつくづく思った1か月でした。

**【記者】** 災害の関連なんですけれども、私が見たわけではないのですが、新聞にも少し書かせていただいたんですけれども、海沿いにある松原小に避難された方がいて、システムの的には分かるんですよ。避難所として開設されてないから入れないと。そういう中で、松原小の周辺でしばらく滞在したという方がいらっしまったということなんです。

これは我々メディアの責任でもあって、津波のときには、東日本以降、まず自助、プラスして次は共助ぐらいで、みんな津波でんでんこでないですけども高台に逃げましょ

うといって報道してきたつもりなんですが、敦賀市としても、そういった方がいまだにいるという中で、今後どういうふうに津波災害のときの避難などについて周知などをされていきますでしょうか。

【市長】 今の話は、記事も見ましたが、難しいなと思いますね。

とはいえ、ほとんどの方は高いところに逃げられているんですよね。逃げられている中で、やはり一部でも、もっと言うと家にずっといた人もいると思うんですよ。危ないところでも。このようなことも含めて、もう少し啓蒙活動はやっていかなければいけないんだろうなと思います。

これは本当に難しい問題で、高いところに逃げてねということです。そここのところの避難所などは、我々は開けることはするんですけども、先ほど申し上げたそうでないところ、要は家に近いいつものところに逃げるとか、あるいは家の中にいて結局動かないとかいうこともまだまだあるというのが今回分かったことでもあるのかなと思います。各区、地区の区長さんとかはやはり防災意識が高くて、市長と区長と語る会とかをやっても、ほとんどの地区で防災の話は出てくるんですね。いざというときにどうしたらいいのかという話は出てきておまして、地域のところでもすごく意識は高まっているので、そのルートを通じてとかいろんなことを考えながら、先ほどのいざとなったらこうするんだということをしてできるだけ多くの方が正しい行動が取れるようにしていかなければいけない。我々もそういうことをこれからやっていくんだろうなと思っています。

今回のことを通じて、本当にやることがいっぱいあるなと思いました。この件に関して、災害対応ということに関して、やることはいっぱいあるなと思っています。

あと津波でやはり一つ独特なのは、今回本当に身にしみて分かったんですけども、例えば台風は天気予報を見ていたらいつ頃来るなというのが分かる。だけど地震は分からないんですよね。もっと言うと、津波は、遠くで起こって自分たちのところは地震の被害はなくても、津波はひょっとすると被害があるかもしれないというところの難しさとかもあるんだなと思いました。

自分たちは大丈夫だったから何なら家でずっとテレビを見ているということもあり得るのが津波のときだったりします。今回、ある意味、市民の方もいろいろそういう意味では経験できたというところもあると思うので、こういうタイミングで啓蒙活動をするとはひょっとしたら効果的かもしれませぬし、考えていきたいなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 冒頭のお話でありました雪で道路の南北、行き来できなかったほうのお話ですが、雪に限らず雨のときでも道路が寸断されました。市長の先ほどのお話の中では、なかなか脆弱さを感じたということで、とはいえ実際現実には名神のほうでは立ち往生などもある中で、今後、道路の事業者だったりとか県だったりとかにはどういう対応をさせていただきたいというような、具体的に何かお考えがありましたら教えてください。

【市長】 脆弱といっても昔とか、あるいは地震が起こって土砂崩れと少し意味が、雪の場合違っているなど。どちらかという予防的な通行止めを最近するんですよね。実際それを今回しなかったと言ったら少し語弊があるかもしれませんが、滋賀県のほうでは実際車が止まってしまうということがあって、あのようなことを避けるために通行止めをするということは、理解はもちろんできるんです。いざあのようなことになったらものすごく大変なので。

ただ、今度逆に、あのようなにならない方法も考えてほしいなと思います。少なくとも何本か道はあるわけだから、少なくとも1本空いているような状況を何とか保てないかなということが一つ。

それともう一つは、たまたまなんですけれども、例えば水害で大雨のときに止まるところと、それから雪で止まるところ、割と似たところが止まる。そのうちの一つ重要なところは敦賀市と、それから南越前町を結ぶ国道8号線です。これについてはずっと、敦賀防災という名前でトンネルは一つ掘っていますけれども、その先のところ、南越前町に向かうところがまだ事業化もされてないということがあって、これはハードをしっかりとやらなと改善できない部分でもありますので、これについては国のほうで再三再四、要望活動、知事も含めてしているところです。これを本当に一日でも早く事業化していただかないといけないと思っています。

10年間で7回も8回も通行止めになっているような道ですし、それこそ国土交通省とかへ行くと、「ブラタモリ」のファンの方が多いみたいで、向こうの国交省の方から、ブラタモリ見ましたよ、全ての道は敦賀に通ずって、さすが敦賀はすごいですねと言われて、いやいや10年間で何回も通じてないんですよと言うんですけれども、本当に大事な道ですから、敦賀にとっても大事ですけれども、北陸と関西、中京方面を結ぶ道が全く動かなくなるというのは広域で見ても損失だと思いますので、ローカルな話だけでなくて広域で見ても損失だということを国のほうにはご理解いただいて、早く事業化してほしいということは思っています。

【記者】 自民党のパーティー券のキックバックをめぐる事件でお伺いしたいんですけども、1月19日に一連の刑事処分は一通り出たということになるんですが、今いわゆる政治的責任をどうするかというのが議論になっていると思います。

地元選出の高木議員も、先週の土曜日に、私たち報道向けにということで会見を開いて説明をした中で、本人としては議員辞職など離党は否定されたわけですけども、市長として、政治責任をどのように考えていらっしゃるのか教えてください。

【市長】 1月4日の記者会見のときも私、申し上げたかもしれないんですけども、本当に地元のためにはいろいろ頑張っていたいただいて、先ほどは国の要望活動とかいう話を私しましたけれども、そのときにも本当にいろいろ、それこそ尽力していただいている国会議員の先生ということで、今回のことは本当に残念です。

この前、記者会見をされて、2月4日にも今度は自民党の県連のほうで説明をされるというように新聞記事では承知していますけれども、そこでまず説明をされます。この前の記者会見も皆さん出られたと思うんです。それで説明責任を果たしたかどうかというのは、皆さん一番よく感じられているところかなとも思いますけれども、私、申し訳ないんですけどもあまりテレビなどでその件に関しては記者会見の様子とか見れてないので、詳しい内容は分かってないんですけども、前に行われた記者会見もそうですし、今度自民党でやられること、その先も何かこれから機会があるのかもしれませんが、まずはしっかりと説明責任を果たしていただくということが必要なのかなと思います。

我々にすると、非常にお世話になっている先生だからこそ、そういう形でしていただけるといいのかなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。

それでは、本日、一般事業発表はございませんので、次第の3の新幹線開業イベント説明会に移りたいと思います。

【市長】 北陸新幹線敦賀開業イベントについてです。

整備新幹線の駅では日本一の高さを誇ると、勇壮華麗なという言い方もあり、敦賀要塞という言い方もありの敦賀駅舎が姿を現しまして、昨年12月には北陸新幹線の運行ダイヤも発表されて、いよいよ今日は2月1日だからもう来月になるんですね。来月の3月16日に北陸新幹線敦賀開業を迎えます。

新幹線の敦賀駅におきましては、東京始発の新幹線かがやきが敦賀に到着する9時34

分に合わせて、敦賀市が一番列車お出迎えを敦賀駅の構内において開催いたします。

それから、県道敦賀駅東線、これは広域観光の出発点となる道であり、また、出発点として機能を有するということ言えば、敦賀駅東口の駅前広場、それから敦賀駅東口の駐車場、この駅前広場と駐車場においては、北陸新幹線敦賀開業と同じ日の3月16日に供用開始となります。

開業当日は、敦賀市内におきましては、敦賀のまちづくりプレーヤーの方々が市内各所でイベントを催す「つるが街波祭」という名前にしているんですけども、つるが街波祭を開催します。

新幹線敦賀開業まちづくり推進会議が中心となりまして、まち全体で新幹線開業をお祝いして、新幹線客を歓迎するイベントの準備を進めています。

当日は、駅前商店街でのオープニングの式典を皮切りに、otta、それから駅周辺から気比神宮周辺にかけての商店街、そして金ヶ崎緑地周辺において、敦賀のまちづくりプレーヤーの方々の多種多様なイベントがスタートいたします。

駅周辺では、駅前通り、駅前のシンボルロードを歩行者専用にしまして、特設ステージを設けて、つるが街波祭オープニング式典とステージアトラクションを開催する予定です。ここには魅力的なゲストをお迎えしまして、新しく、これも新聞とかで報道されていますけれども復活した敦賀の地酒ですね。お酒の名前は「月清し」ですけども、この月清しで鏡開きをするということでお祝いをしたいと思っています。

その後、先ほどステージアトラクション開催予定と言いましたけれども、このステージアトラクションでは、市内の子供たちのダンスなどで会場を盛り上げていただく予定になっています。

それから、同じ駅前のシンボルロードですけども、観光物産イベントを開催しまして、市内の特産品や新幹線沿線、それから友好都市の各市町、いろいろありますけれども、その市町のPRをしていただくことができるような、たくさんのブースを集めていきたいと思っています。

それから、プラザ萬象においては、毎年恒例となりましたつるが鉄道フェスティバルが開催されます。ここではミニ新幹線の体験乗車など鉄道に関連したイベントで会場がにぎわうということです。

気比神宮の周辺では、たくさんのキッチンカーを並べていただきまして、各商店街が主催者となった飲食マルシェが開催されるなど、市内外からおいしいもの、うまいもんが楽



しめるような、そういう企画になっています。

それから、開業日、3月16日の夜ですけれども、北陸道総鎮守気比神宮の大鳥居から参道に沿ってガラス灯籠を設置してライトアップすることで気比神宮らしい幻想的な空間を創出する予定です。

金ヶ崎緑地の周辺のほうでは、緑地一帯にクラフト雑貨や飲食などのマルシェが開催されるほか、赤レンガ倉庫でのイベントが開催されます。

博物館通りでは、地元の店舗がワークショップなどを開催する「晴れの(日)」が開催されるとともに、山車会館のリニューアルオープンを記念した式典、それから山車を引くイベント、山車引きイベントを企画中です。普通だと敦賀まつりとか、けいさん祭りのときだけのものを3月16日に合わせて行うということを考えています。

それから、今ご紹介したもの以外にも、開業当日に向けて様々な企画が今でも現在進行形で検討されています。つるが街波祭のパフレットも作成中です。

今回こういうことを早めに皆さんに知っていただきたいなというのもあって、こうやって記者会見第2部のような形でやらせていただきますが、正直まだ検討中のところもあります。例えば表でも空欄、計画中ということになっているところもあるかと思えますけれども、全体が固まり次第、また改めて皆様にお知らせしたいと思えます。パンフレットは、開業日までということになるんですか。大分前倒しでいけますかね。

パンフレットなど、今回が周知の最後ではなくて、もう一回ぐらい最終形でやりたいなと思っています。

せっかくの機会なので少しお願い事のようなことを今ここで言わせていただきますと、当日、多くの方々が駅のほうだったり商店街のほうだったり金ヶ崎のほうに行き、にぎわうことが予想されますので、ぜひ公共交通機関等を利用していただきたいなと思えます。

3月16日以降、ぐるっと周遊バスを増便する予定になっておりますので、これまでよりもそういう意味では利便性も向上すると思えますので、皆様のご協力をお願いしたいと思えます。

それから、開業当日のイベント等については、今回私どものほうでこうやって報告させていただいていますけれども、新幹線敦賀開業まちづくり推進会議で調整、取りまとめを行っているところです。

今日は現時点での開業イベント概要を中間報告としてお知らせさせていただきましたけれども、先ほども少し話がありました今月の2月20日には新幹線敦賀開業まちづくり推

進会議が開催されます。そこで、つるが街波祭の名称のロゴや詳細の内容を記載したパンフレット等が公表される予定になっています。

今後、市民の皆様にもぜひ知っていただきたいということで周知をさせていただきますので、本当に楽しみにしていただいて、一緒に胸をときめかせながら官民一体、オール敦賀体制で北陸新幹線と敦賀を訪れるお客様をお迎えしたいと思っています。

私からは以上です。

**【観光部長】** 市長が最後に申しましたとおり、官民一体、オール敦賀体制の皆様をお迎えするというような形を取っております。これは従前から、いろんなイベント等につきましてもこの形を取らせていただいております、1年前の開業イベントも同じような形で開催させていただきました。

それから後、いろんなところでこういったまちづくりプレーヤーの方々がイベントを開催していただけるようになりました。そして先般、1月11日には、カゲールのほうで総決起大会というものも開催させていただきました、機運の盛り上がりを感じているところです。

ですので、あと44日となりましたが、当日、また16、17というのは、あくまでこういったまちづくりの始まりの日と考えておりますので、その後もいろんなことが続くような仕掛けをしっかりとつくっていきたいと思っています。

また、この16、17日にお会いした方々が再度、敦賀のほうにお越しいただける、子どもは帰ってきていただけるというような思いで開催したいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上でございます。

**【秘書広報課長補佐】** それでは、何か質問がございましたら幹事社の方からお願いいたします。

**【記者】** 確認なんですけれども、今後まだ検討中で内容が変わったり増えたりすることもあると思うんですけれども、敦賀市で主催する内容としては、基本的には書いてあるナンバー1とナンバー2、これで全てということになるのか、それともまだ計画されていることがあるのか、いかがでしょうか。

**【市長】** ここに書いてあるところでナンバー1とナンバー2ということなんですけれども、例えばそれ以外でいうと、18番の博物館だったりとか、それから22番の敦賀ムゼウムと書いてあるところ、これは市の施設ですので、市がやっていくことになると思いま

す。

今回、非常にありがたいことに、民間の方がお願いしなくても、私たちはこれをやりたいとか、これをやっていくんだというような、すごい積極的に手を挙げていただいているということがあります。割と私さきほどからまちづくりプレイヤーという言い方をしているんですけども、そういう人たちに活躍していただけるような、そういう1日になるのかなと思っています。

もしそういうのがなければ、本当に市役所で何か考えなければいけないのかもしれませんが、今この時点で盛りだくさんになっているので、ありがたいことだと思いません。

問題は、これだけいろんな主催者になってきているので、これをどううまくみんなに伝えていくかというのがうれしい悲鳴になっています。1個か2個のイベントだったらそれで終わりですけども、これだけのイベントを分かりやすく例えば地図に落とし込んだりして、みんなにどうこの1日市内を巡ろうかなとかいうことを市民の方にも、あるいは来訪者の方にも分かっていただくようなことを考えるときに、市のほうというか、まちづくり推進会議のほうが中心になるわけですけども、街波祭という大きいくりをつくって、そこで広報宣伝活動もやっていくというような仕組みづくりは一応やっているつもりです。

**【秘書広報課長補佐】** 幹事社の方、よろしいですか。

では次に、各社の方からお願いいたします。

**【記者】** つるが街波祭という名前が、決起集会のときも取材させてもらって、そこでも「仮」というふうに出てはいたと思うんですが、「仮」が取れて出てきたのは今日が初めてで、今日発表したような形でいいのか。「仮」が取れて正式名称ということで大丈夫なのかということと、あと、街波祭という名前に込めた思いといいますか、なぜこの名前にしたのかということも教えていただければと思います。

**【市長】** もう「仮」は取れているということでもいいんですね。

**【観光交流課長】** 正式には、推進会議で承認という形になりますけれども、推進会議のイベント部会等でも、この名前で行きましょうというような話はされていますので、承認待ちだと思います。

**【市長】** では、まだ「仮」ですね。

正直、今のタイミングなので、波という言葉に反応される方もひょっとしたらいるのか

など少し思ったりもするんです。けれども、敦賀はやはり鉄道と港のまちということがあり、新幹線の西側、まちなみ口でいいんですよね。要は、まちなみという言葉と海というのをかけて、本当だったらひたすらい名前だねという話なのかもしれませんが、少し気にされる方はいるかもしれないんですが、基本的には町の特徴をよく表した名前かなと思います。先ほど私、日常生活をしっかりと送るという言い方をしたんですけども、これもそのうちの一つなのかなと思っています。

正直言うと、殊さら今日この名前のことは私、言わないでおこうと思っていたんですけども、ご質問があったので申し上げました。まだ「仮」ということで。

【記者】 イベント概要の計画中のところなんですけど、これは今何かアイデアがあって、それを具体化するために動いているという段階なのか、まだ白紙の状態、これから一から考えますという段階なのか、どちらなのでしょう。

【観光部長】 計画の場所によって少し温度差はありますけれども、皆さん、何かやろうということで計画をしているというような段階ということでご理解いただければと思います。

【記者】 ということは、今度の2月20日の推進会議のときには、この計画中的いうのも具体化されて、全部発表ということになるのでしょうか。

【観光部長】 2月20日につきましては、例えばこの中にないものもひょっとしたら出てくる可能性はありますし、計画中がひょっとするとなかなか難しいという形になるかもしれませんが、2月20日の時点では、全て推進会議のほうで諮らせていただいて、そこで決定するという形になるかと思っています。

【記者】 20日が最終決定という場ですか。

【観光部長】 はい、20日が最終決定になります。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課主幹】 では、ほかにございませつか。

それでは、以上をもちまして記者会見を終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後2時55分 終了